



Preoperative prognostic nutritional index as a predictive factor for medical complication after cervical posterior decompression surgery: a multicenter study

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2023-04-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 黒須, 健太 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004357

論文審査の結果の要旨

栄養状態が不良な場合、様々な分野において術後の内科的合併症リスクが高く、特に外科手術では予後推定栄養指数（prognostic nutritional index: PNI）で患者リスクにあった対策を行っている。頸椎後方除圧術はその他の脊椎手術より合併症が比較的多いとされているが、栄養不良が患者に及ぼす影響については不明である。本研究では、頸椎後方除圧術を受けた栄養不良患者を PNI で評価し、周術期内科的合併症について調査することを目的とした。

本研究は浜松医科大学臨床研究倫理委員会の承認を得て行った(19-242)。2010年8月から2019年7月の間に浜松医科大学医学部附属病院またその関連11病院で頸椎後方除圧術を受けた患者289例をレトロスペクティブに解析した。結果として、PNIは、平均年齢、BMI、血清アルブミン値、総リンパ球数で有意な差を認めた。また、入院期間、自宅退院率、せん妄、内科的合併症、手術前後のJOAスコアに有意差を認めた。一方、JOAスコア改善率は2群間で差はなかった。独立変数を年齢、出血量、PNIとし、従属変数を内科的合併症とした多重ロジスティック回帰分析の結果、内科的合併症の有意な危険因子は $PNI < 50$ ($P = 0.024$ 、オッズ比 [OR] 2.746、95%信頼区間 [CI] 1.143-6.600)、年齢 ($P = 0.005$ 、OR : 1.064、95%CI : 1.020-1.111) であった。今回の結果から術前にPNIによるリスク評価を行うことは重要であることが示された。頸椎後方除圧術において $PNI < 50$ は入院期間、自宅退院率、内科的合併症率を悪化させる。さらに、PNIは内科的合併症のリスク評価に有用であり今後は介入目標になり得る可能性がある。

本研究では、頸椎後方除圧術後の内科的合併症の予測因子としての術前予後推定栄養指数 PNI が有用であることを示した点を、審査委員会では高く評価した。以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査委員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 黒住 和彦

副査 尾島 俊之

副査 山内 克哉